



しょうがいしゃ まえ ひとり にんげん  
障害者である前に一人の人間です

かいぎょうむしきこうりじ とみたただかず  
ちいしば会業務執行理事 富田忠一

二〇〇〇年十一月十二日

第三種郵便承認

毎月

二・三・四・五・六・七・八の日

発行

ちてきしょうがい とうじしゃ うんどうだんたい  
知的障害をもつ当事者の運動団体「ピープルファースト」の全国大会が今年、20年ぶりに奈良で開催されることになりました。

ねん なら かいさい おり ほうじんか いぜん えん せんこくたいかい げんち  
1998年に奈良(いかるがホール)で開催された折には、まだ、法人化される以前のちいしば園が全国大会の現地じっこういいんかいじむきょく てつだ  
実行委員会事務局としてお手伝いさせていただきました。

とうじ ちてきしょうがい ひと もんだい かぞく うんどう ゆだ おお  
その当時は、まだ、知的障害をもつ人たちの問題については、そのご家族の運動に委ねるところが大きかったことから、知的障害をもつ当事者の運動の意義をご理解いただくことも困難な状況であったことを想い返します。

ねん けいか だんたいめい ふく ちてきしょうがい とうじしゃ みづか  
あれから20年が経過して、「ピープルファースト」という団体名も含め、知的障害をもつ当事者のみなさんが自らのけんりようご うんどう おこな とうせん りかい じょうきょう へんか  
権利擁護のための運動を行うことを当然のことと理解していただける状況に変化しました。

かつどう ないよう ねんまえ おお ばめん しょんしゃ しゅどうとき かいにゅう え ばめん おお  
また、ピープルファーストの活動の内容も、20年前には多くの場面で支援者が主導的に介入せざる得ない場面も多くありました。しかし、この活動を長く経験することで、様々な経験を積み、自分たちのことを自分たちで考えるというあたりまえのことを繰り返す中で、「自分たちのことは自分たちが決める」という原則を当然のこととして実行できるようになりました。

たいかい せんこくじっこういいんかい げんちじっこういいんかいなど ていねい はなし  
大会へむけての全国実行委員会、現地実行委員会等、丁寧な話合いを繰り返す中で、大会のテーマやせんたいかい ぶんかかい ないよう しかい はっぴょうしゃ せんてい じかん けってい じぶん て おお たいかい つく あ  
全体会、分科会の内容、司会や発表者の選定など、時間をかけて決定し、自分たちの手で大きな大会を創り上げています。

へんか ちてきしょうがい ひと なに じぶん いしも そんざい き  
このような、変化は知的障害をもつたちは「何もできない」「自分の意志を持たない存在である」と決めつけてきました。支援と決別して、知的障害をもつたたちの潜在的な力を信じ、当事者のみなさんのエンパワメントに視点を置いた支援を積み重ねたこととその結果による当事者のみなさんの努力によってもたらされたものです。

ひと しょうがい うむ かか ねんれいそうおう けいけん つ ひとり にんげん そうおう あつか う  
人は、障害の有無に関わらず、年齢相応の経験を積み、一人の人間として相応の扱いを受けることによって、しゃかいてき そんざい へんか ちてきしょうがい ひと とま しゃかいてきかんきょう じっこう  
社会的な存在に変化していくのでしょう。知的障害をもつたたちを取り巻く社会的環境は、そんなあたりまえのことが実行じょうきょう なが づ ちょうど ねんまえ ならたいかい とし ねん せいしんはくじやくしゃふくしほう  
されない状況が長く続いてきたのです。丁度、20年前の奈良大会の年(1998年)それまでの「精神薄弱者福祉法」から「知的障害者福祉法」へと改名され、法の目的も単に保護の対象ではなく、「自立と社会経済活動への参加をそくしん へんか 促進する」ことへと変化したのです。

こんにち しょうがい たい ごうりてきはいりょ ぎおか じだい へんか いま ごうりてきはいりょ しょうがい  
今日では、「障害に対する合理的配慮」が義務化される時代に変化しました。しかし、未だ、合理的配慮とは、障害ひと はいりょ とくべつ ば とくべつ あつか ようい かんちが しん しく おお そんざい  
をもつたたちに配慮した「特別な場」や「特別な扱い」を用意することと勘違いした支援や仕組みが多く存在しています。本来、あるべき姿の「合理的配慮」とは、どんな障害があっても、一人の人間として、他の人たちと同じ場所で、同じような経験や扱いを受けることができるよう、物理的な調整を図ることではないかと考えます。

けいけん あつか う ぶつりてき ちょうせい はか ひとり にんげん ほか ひと おな ばしょ おな  
ピープルファースト(障害者である前に一人の人間です)ということを大切にした支援を改めて考える機会にしたいと思ひます。



## グループホームの役割

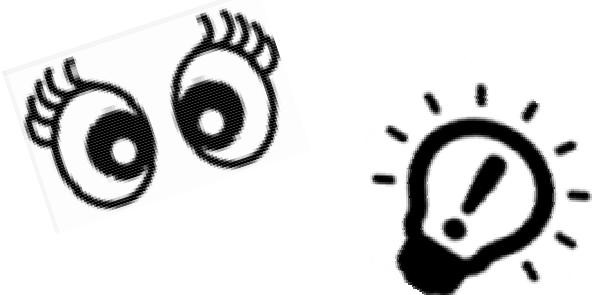
よねだ まもる  
米田 守

グループホームは地域で少人数で暮らす生活の場で入居者にとっての「家」であり、入居者同士が協力し合って暮らしています。支援者と一緒に食事の準備をしたり、洗濯や掃除、入浴などもお手伝いさせてもらいながら また、できることはなるべくご本人でおこなってもらうように主体的に過ごしていただいています。

近年ちいしば園の利用者の平均年齢も上がり(37歳)、ますますグループホームの利用ニーズが増えると予測され、グループホームが担う役割や親御さんからの期待も高まっているところです。また、社会的にみても地域移行を一層進めていくためにも、グループホームの果たす役割は大きいと言えます。

私がグループホームでの支援で主に大切にしないといけないと思っていることは・・・①主体性を尊重し自由でゆとりある生活を支援していく。②安心して安らげる生活を支援していく。③安全で健康的な生活を支援していく。 入居者の方々にこうした生活を支援するために私たち支援者はなにかをしないといけないか考えます?? 日中に通所されているちいしば園では活動の中でそれぞれしなければならないこと作業等一日のタイムスケジュールがあり、各部門ごとにもプログラムがあります。支援者はそれに基づいて支援をおこなっていますが、はじめに言ったようにグループホームは入居者にとって「家」であり基本的に自由に過ごしていただくということが前提にあると言えます。それぞれの居室でテレビゲームをしたり、カラオケをしたり、横になりテレビを観ながらマッタリと過ごすなど人それぞれに過ごすのも自由です。ただ少人数で自由であるとは言え共同生活ですので食事の時間や入浴の時間、就寝の時間などグループホームのルールを守って生活してもらわなければなりません。グループホームでは「入居者の主体性を尊重し本人の意向に基づく支援をしていく」とと「少人数での共同生活を支援していく」ことを念頭において支援していかなければならぬと考えます。

また、グループホームは障害のある人が地域で主体的に暮らす実現をめざしている一方で、議論が十分にされないまま、地域移行の資源や手段とし制度化され支援の実態とかい離するなど、さまざまな課題が提起されています。こうした課題を解決するためにはどのような制度が必要なのかをグループホーム関係者だけでなく社会全体で考え変えていける取り組みをしていかなければなりません。



## ごうりてきはいりよ みつけた！合理的配慮

えん せいかつしえんいん のなかりな  
ちいしば園 生活支援員 野中梨奈

せんじつ 先日、私はある講演会に参加してきました。その講演会は、ドキュメンタリー映画『みんなの学校』を題材に行われるものでした。この映画は、3年前にちいしば会主催で上映会とシンポジウムが行われたため、ご存じの方もいらっしゃることでしょう。

『みんなの学校』は、“不登校ゼロ”を目指す大阪市立大空小学校の取り組みを紹介した関西テレビのドキュメンタリー番組を劇場版として再編集した作品です。大空小学校では、特別支援教育の対象となる障害のある子や、自分の気持ちを上手くコントロールできない子も、みんな同じ教室で学びます。開校当初(大空小学校は2006年開校)は地域の人たちの理解を得ることが難しかった、と、当時の校長先生である木村泰子さんがおっしゃっていました。しかし、「学校が変われば地域が変わる、そして、社会が変わっていく」ということを信じて歩み続けていった結果、大空小学校は、児童と教職員だけでなく、保護者や地域の人たちも一緒に作って作り上げる“みんなの学校”になっていったそうです。

『みんなの学校』には、児童と教員の関わりや児童と地域の人の関わりなど、さまざまな場面がたくさん収録されていますが、私が一番心に残った場面は児童同士の関わりの一場面です。不安が募りなかなか教室に入ることができない男子児童セイシロウくんに対して、クラスメイトが「何か怖いん?」「大丈夫やで、教室は何も怖いことない」「みんなセイシロウのこと待ってるんやで、一緒に行こう」などと声をかけていました。その時、セイシロウくんはクラスメイトのその言葉を聞いても「嫌やー！！」と叫び続けていましたが、その後のクラスメイトたちや教員の諦めない関わりが実を結び、セイシロウくんは教室に入ることができました。セイシロウくんが教室に入れた時のクラスメイトたちの「おかえりセイちゃん」「待ってたで」という言葉に、心がじんわりの温かくなるを感じました。“合理的配慮”と言うと、なんだか少し硬く聞こえるような気がしますが、このような事がそれに値するのだろうな、と、改めて考えるいい機会となりました。

考えてみれば、私自身も同じような環境に置かれていたときがありました。かれこれ20年ほど前の話ですが、私が通っていた幼稚園がまさにそのような環境だったと感じます。その幼稚園とは、ちいしば会とも関わりの深い愛の園幼稚園です。私が園児だった頃、いわゆる障害がある子どもたちが愛の園幼稚園には数名いたように記憶しています。当時の私には、障害だとかなんだとかそんな概念は一切ありませんでした。耳の聞こえづらいお友だちには覚えたばかりの文字や絵で気持ちを伝えたり、手足を動かすことが苦手なお友だちが歩きづらそうにしているときには手を繋いで一緒に歩いたり。当たり前のようにそんな日常を送ってきた私が、当のことや『みんなの学校』を見て思うことは、環境が人に与える影響はとても大きいということです。助け合うことを法律で定めなければいけない世の中に疑問を抱きますが、ひとりが変われば隣人が変わり、またその隣人が変わる、それがどんどん広まっていく、そのような世の中を思い描きながら、私もそのひとりになれるよう日々過ごしていきたいと思っています。

## グループホームでハイキングに行きました!!

5月12日(土) エンゼルハウス・にぬふあ星の

土曜日・日曜日も利用しているみなさんとお出かけに

行きました。行き先は希望を募り馬見丘陵公園へ

15名で楽しんできました。

早めのお弁当を食べたあと、しゃぼん玉やバトミントン。

5月とは思えぬ炎天下でしたので水遊びできるスペースで

足湯ならぬ足水(?)で少し涼むことができました!

このようにグループホームを土曜日・日曜日利用している方が

楽しめる行事を少しずつですが充実していきたいと考えています。(井上)



## エンゼルハウスは引っ越ししました!!



長年、お世話になった皆さん、  
ありがとうございました。

転居の際は、近隣の皆さんから「寂しくなる」や「若い人たちで活気があったのに~」など、たくさんのやさしい言葉を  
かけて頂きとても嬉しかったです。

新しいメンバーを迎える、慣れない所での  
生活ですが、楽しく新しい生活を送っています。  
これからも応援よろしくお願いします



# かいしょくいん ちいしば会職員リレー エッセー



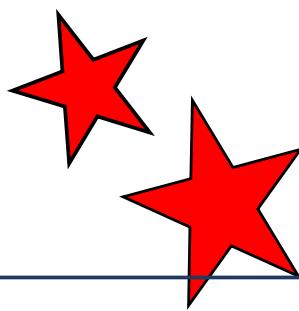
## 「わたしの好きな言葉」

えん たつみ まなみ  
ちいしば園 辰己 真奈美

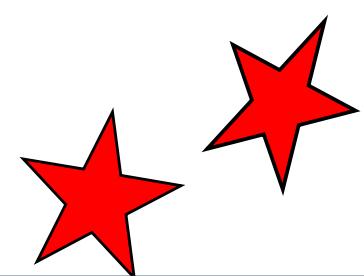
わたしの好きな言葉は、「一期一会」です。この言葉は、学生の時に四字熟語で何度も目に入った言葉です。広辞苑には、「生涯ただ一度まみえること。一生に一度限りであること。」（一生に一度の出逢いを大切にするべき）とあります。語源は安土桃山時代、千利休が説いた茶の湯の心得にあると言われています。しかし、この言葉の本当の意味は少しニュアンスが異なるようです。大人になり、茶道を習っていた時に改めて言葉の意味を恩師から教わったことがきっかけで、言葉の意味の解釈の仕方が少し変わりました。

江戸幕府の大老でもあり茶人でもある井伊直弼が、自身の著書『茶湯一會集』で初めて出てきた言葉だそうです。その中で、「そもそも茶湯の公会は一期一会といひて、たとえば、幾度おなじ主客公会するとも、今日の会にふたたびかへらざる事を思へば、實に我一世一度の会なり、去るにより、主人は万事に心を配り、いささか粗末なきやう（中略）実意を以て交わるべきなり、是を一期一会といふ」（何度も同じ人と茶会で同席することがあるとしても、この茶会は、一生にその日ただ一度のこと。二度と同じ時に戻ることはできないのだから心を尽くしてもなきなければならない）と述べています。つまり、毎日顔を合わせる友人や家族や同事仲間であっても、言葉を交わすその一瞬は、「一期一会」である。相手を思いやり、出逢えたことに感謝しなさい。という意味だそうです。「一期」は、私たちの生涯のこと、「一會」は、ただ一回の出逢いということで、つまり、一生涯でたった一度の出逢いをしていることです。普段私達は何度も人に出逢いますが、よくよく考えてみるとその時その時の出逢いは、一度きりで二度と同じ機会が戻ってくることはないんじやないかと思います。そう考えると自分自身の生き様もか変わってくると思います。言葉の使い方や物の考え方、行動の仕方等々。だから、そう思わせてくれたこの言葉が大好きです。私がちいしば園でお世話になり皆と知り合えたことも本当に偶然ですばらしい出逢いをさせていただいたんだと思い、感謝して毎日逢う皆との時間を大切に送りたいと思います。

つぎ  
次は、ちいしば園の阪本 大和さんにバトンを渡したいと思います。  
ひ つづ  
テーマは引き続き「わたしの好きな言葉」です。  
ねが  
よろしくお願ひします。



# しゃしんとも 写真で友だち紹介



このページでは、利用者の皆さんに、お友だちをひとり選んで写真を撮ってもらい紹介してもらいます。紹介をされた人には、次号であらたなお友だちを紹介してもらうという数珠つなぎのコーナーです。お友だちを紹介してくれた人には3つの質問をお願いします。

《1、どうしてその人を選びましたか？ 2、どういう所が気になりますか？ 3、その人の好きなことは？》

竹下 由里子さんより



軽作業2階部門の時からの友達の

小川 あゆみさんを紹介します。

タオルを首にかけているところが

気になります。おもわずイタズラで

と取ってしまいます。

優しく遊んでくれるところが好きです。

藤本千絵さんより

前平正恭さんを紹介します



私は前平正恭くんのことを紹介します。

私は奈良交通の話をしたり、相棒の話をしたりするのが楽しいです。

前平くんは阪神の大ファンなので野球を見ることが好きです。

前平くんが興味あるものは、名探偵コナンやベースボールが好きです。一人でも映画を見に行ったり、好きな俳優は川原和久、木下あや美、織田裕二、柳葉敏郎です。

これから前平くんと温泉の受付作業をがんばりたいと思います。



藤本千絵

が たいけん

# ブルーベリー狩り体験ができます！！



なつ おも で 夏の想い出づくりに、ぜひ！ちいしば園のブルーベリー狩りにおこしください(^^♪

●実施日時 7月／20(金)、23(月)、25(水)、27(金)、30(月)、31(火)  
8月／1(水)、3(金)、6(月)、7(火)、8(水) 雨天時の実施は応相談

10時～11時30分 (受付及び事前説明30分+食べ放題1時間)

●料金：500円 (中学生以上) / 400円 (3才～小学6年生) / 2才以下無料  
持ち帰りパック別途料金 (100グラム 300円)

●申込：各日 先着15名まで (要予約 当日9時まで受付可)

※実の状態によっては日程の変更や中止をお願いする場合がございます。ご了承ください。

●お問い合わせ：ちいしば園 (担当：新宮)まで 0745-72-1923

ブルーベリー狩りのあとは、涼しいお店でごゆっくりどうぞ…(^^)/

**ちいしばのおみせ**  
かふえどんkey

TEL 636-0815  
三郷町勢野北  
5丁目6-14  
ちいしば園

**営業時間**  
平日 10:00～16:00

**☆手作り焼き菓子☆**  
ちいしば園でひとつひとつ丁寧につくっているお菓子を販売しています。

**☆ランチ☆**  
ランチメニューは5種類ご用意しています。人気メニューはチキンカレーです。

**☆限定メニュー☆**  
ちいしば園でとれたブルーベリーを使ったドリンク、デザートをご用意しています。

**☆駄菓子☆**  
10円～40円の駄菓子を販売しています。たくさん種類をそろえてお待ちしております。

ご家族で、お友だちと、おひとりで、お子様だけで…  
お気軽にお越しください♪

☆後援会費・ちいしばだより年間購読料（2018年2月1日～2018年3月31日）

篠原範子(12～3)、馬見労祷教会、高の原教会、フルハウスの会、長谷川多鶴子、大阪聖和教会、日本基督教団大阪教区事務所

以上 敬称は略させていただきます

※2018年度の購読料については、今回、同封の郵便振替用紙にてお願いします。

年間購読料（郵便送料込） 500円

## なつ たの 夏のお楽しみイベント開催

### ブルーベリー狩り & はたさんの園芸講座！！

ブルーベリー狩りとちいしばのお店 ドンキーでのランチをお楽しみいた  
だいたあとは…、NHK『ぐるっと関西おひるまえ』に講師として出演中  
のガーデニング研究家“はたあきひろさん”による園芸なんでも相談会を  
開催します！

日時：7月26日（木）

10時～14時 先着20名

費用：1000円（ランチ代金含む）

申込：ちいしば園（担当：シングウ）まで



NHKテレビ『ぐるっと関西おひるまえ』に、ガーデニング講師として毎月出演中の‘はたあきひろ’さんがきます！



~~集会のご案内~~

やまゆり園事件から考える—partⅢ

私たち奈良県内の障害者団体で、「相模原やまゆり園事件を考える会・奈良」を立ち上げ、  
2016年7月26日に相模原市やまゆり園で起こった障害者殺傷事件について、継続的な話し合い  
の場を設けています。

今回で3回目となる集会を下記内容で検討しているところです。多くのみなさまと一緒に考  
える場にしたいと思います。

日時：2018年7月28日（土）13：30～16：00

会場：奈良市中部公民館大ホール（予定）

主催：相模原やまゆり園事件を考える会・奈良、障害者差別をなくす条例推進委員会

## KSKS ちいしばだより

編集人／ちいしば会後援会

年6回 頒価 50円

連絡先／奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL：0745-72-1923 FAX：0745-31-5760

発行人／関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F

一〇〇〇年十一月十二日 第三種郵便承認

毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行